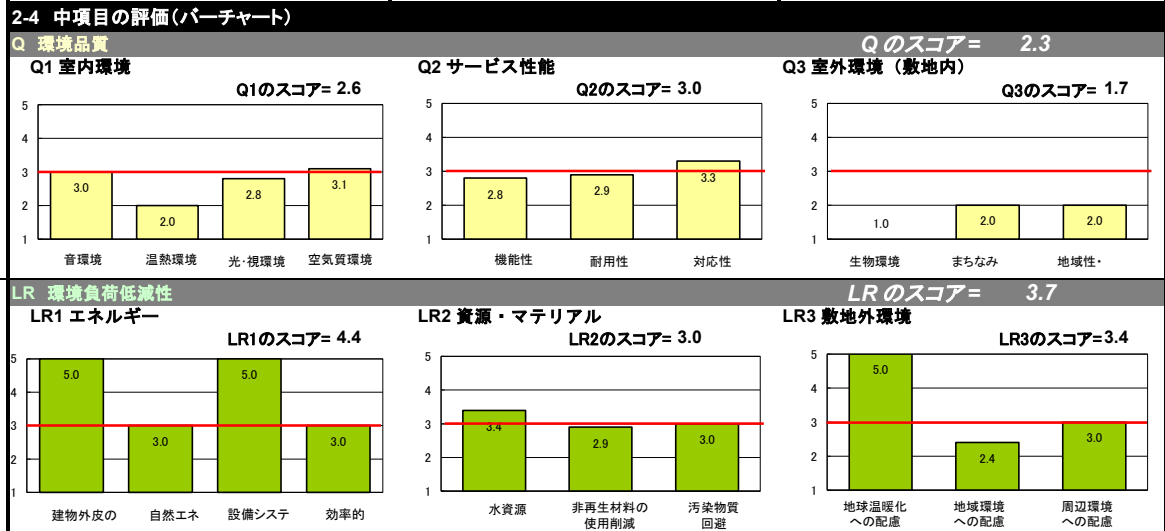
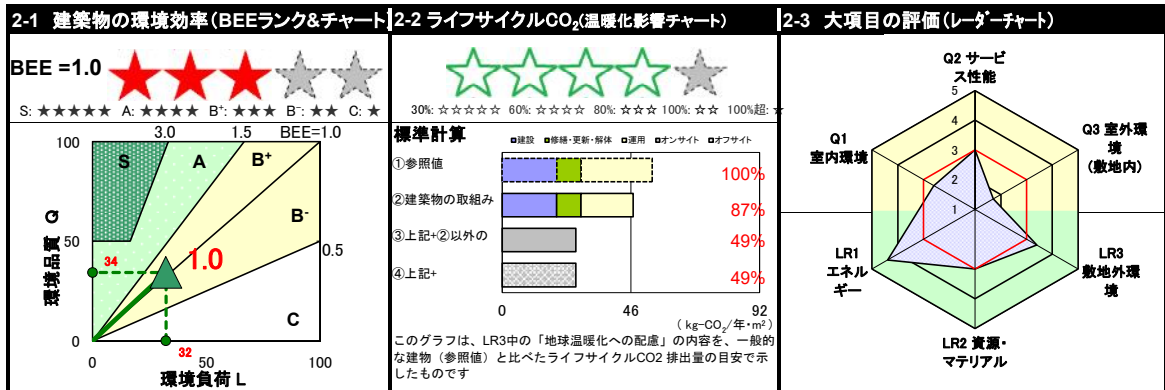


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)高瀬金型 第四工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県稲沢市西島二丁目129番・134番・135番	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	105 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年3月21日
敷地面積	2,651 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 加藤設計 水野
建築面積	1,403 m <sup>2</sup>	確認日	2024年5月30日
延床面積	2,683 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 加藤設計 水野



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>11.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (幹高瀬金型 第四工場)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>						0.30	-	<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.15	-	3.0
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能				3.0	3.0	0.60	-	-
2 界壁遮音性能				3.0	3.0	0.40	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				3.0	3.0	0.20	-	-
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.0</b>
2.1 室温制御				2.0	3.0	0.35	-	-
1 室温				3.0	3.0	0.50	-	-
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.25	-	-
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-
2.3 空調方式				1.0	1.0	0.20	-	-
				1.0	1.0	0.30	-	-
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.8</b>
3.1 屋光利用				2.8	4.2	0.25	-	-
1 屋光率		事務室昼効率2.775%		4.2	5.0	0.30	-	-
2 方位別開口				3.0	-	0.60	-	-
3 屋光利用設備				3.0	3.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.30	-	-
1 屋光制御				3.0	3.0	1.00	-	-
3.3 照度				3.0	3.0	0.15	-	-
3.4 照明制御				1.0	1.0	0.25	-	-
<b>4 空気質環境</b>								<b>3.1</b>
4.1 発生源対策				3.1	4.0	0.25	-	-
1 化学汚染物質		居室・天井裏にはF☆☆☆☆区分されたものを使用する		4.0	4.0	0.50	-	-
4.2 換気				2.3	2.3	0.30	-	-
1 換気量				3.0	3.0	0.33	-	-
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-
3 取り入れ外気への配慮				1.0	1.0	0.33	-	-
4.3 運用管理				2.0	2.0	0.20	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				1.0	1.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>								<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				2.8	3.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.40	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33	-	-
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性				2.3	2.3	0.30	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.33	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	0.33	-	-
3 内装計画				1.0	1.0	0.33	-	-
1.3 維持管理				3.0	3.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	3.0	0.31	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.48	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	2.9	0.20	-	-
1 躯体材料の耐用年数				2.9	3.0	0.33	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	2.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	3.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水管にVP管(B)を採用		4.0	4.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	3.0	0.23	-	-
2.4 信頼性				2.8	2.8	0.19	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備				2.0	2.0	0.20	-	-
3 電気設備	②			3.0	3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-



重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>5.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12
			外構緑化:11.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)高瀬金型 第四工場

計画上の配慮事項	
総合	外壁・屋根・開口部の断熱性の強化、高効率設備の導入、太陽光発電パネルの設置により、BEI=-0.86を達成した『ZEB』工場としている。
Q1 室内環境	ホルムアルデヒド発散材料はF☆☆☆☆区分の製品を全面的に使用する。
Q2 サービス性能	階高を1F6.0m、2F5.7mとし、更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化により良好な景観の形成に努めた
LR1 エネルギー	断熱性の向上により、空調負荷を低減に努めた
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用により、水資源の節約に配慮した。
LR3 敷地外環境	敷地内駐輪場、駐車場の十分な設置により周辺交通負荷の低減に配慮した
その他	工場の生産エリアには地中熱を利用した補助空調を採用しており、省エネ及びCO2排出の低減に配慮した計画としている。